

会 議 録

会議名	平成23年度第3回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成24年2月20日(月) 13:15~14:35
開催場所	宇都宮市役所14B会議室
出席者	【委員】小平美智雄, 舟本肇, 小林紀夫, 遠藤和信, 金沢力, 大森玲子, 藤本一男, 北條信男, 神宮由美子, 佐瀬敦, 高松智之, 神山正巳, 仲田陽介, 田野島和子 【事務局】環境部長ほか22名
公開・非公開	公開
傍聴者	なし
議題	1. 焼却ごみ量の現状と対応について 2. 平成24年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画(案)について
会議結果	各委員から出された意見等を, 計画策定に活用していく。

会議内容	
焼却ごみ量の現状と対応について	
遠藤(和)委員	1(2)の焼却ごみの見込み量が目標値と比べて3.9%増加しているのはなぜか。1(1)の比率と同じなのか。数が多くなっているのはなぜか。
事務局	組成分析調査は3年に1度行っているが, プラスチック製容器包装は約11%から8%に, 資源化できる紙は約14.7%から14%に減少しているところである。 ただし, 今年度に見込み量が増えた要因は, 記載のとおり, 市民の意識低下に伴うプラスチック製容器包装や資源化できる紙等の資源物が焼却ごみへの混入したことや4~6月における東日本大震災による影響が考えられる。
遠藤(和)委員	組成分析の値が毎年異なるのは, 市民の意識低下によるものなのだろうか。増加は4~6月における東日本大震災による影響でよろしいか。
田野島委員	納豆の容器のうち, ふたはプラスチック製容器包装で出す人が多いが, 入れ物は汚れるため, 焼却ごみで捨てられてしまう。簡単に落とす方法はないのか。
事務局	納豆の汚れは水に浸すことで落とせるため, 講習会でもそのように話しているが, 基本的に汚れのひどいプラスチック製容器包装は焼却ごみとして出しても構わないこととしている。
遠藤(和)委員	生ごみの水切りの徹底のため, 水切り器をイベントでノベルティとして配布しているようだが, 希望者に積極的に配布したらどうか。
事務局	今年度, 生ごみの水切りモニターを募集し, 水切り器を活用した水切りを7日間実施してもらった。その状況は広報紙等により周知しているところである。
遠藤(和)委員	より積極的に周知してほしい。
事務局	モニターの募集をしたところ50名が集まった。引き続き, 配布していく。

会議内容	
平成24年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画（案）について	
藤本委員	放射性物質のモニタリングとあるが、公表はどうするのか。
事務局	放射性物質のモニタリングは各施設で現在も行っており、焼却灰や飛灰等を測定し、ホームページで値を公表している。
小平委員	P3の第4 2（1）の粗大ごみが「H23見込」と比べて、「H24計画処理量」が大きいのはなぜか。 P4の第5 1（1）の分別強化推進事業のうち、自治会未加入者対策とはどのようなことを実施するのか。
事務局	粗大ごみの計画値は、東日本大震災の影響を考慮し大きくしたが、実際は大きく増えなかった。 次に、自治会未加入者対策であるが、不動産管理会社への周知依頼を図っているほか、新入大学生に対してチラシを配布したり、専門学校では直接学生に説明を行っている。また、不動産管理会社を通して、分別講習会を開催していきたい。
舟本委員	第6 1（1）の「高齢化等を踏まえたごみ収集」とはどのようなものか。
事務局	高齢者等からの戸別収集であり、対象は360世帯を見込んでいる。 地域の助け合いやヘルパーによる手伝いにより、ごみ出しを行っている方以外でごみ出しが困難である方に対し実施していく。
舟本委員	戸別に収集するのか。
事務局	家庭からの申し込みにより戸別収集を検討している。
田野島委員	地域に車椅子の方がいて、ごみ出しの相談を受けたことがある。そういう方も含めて対応してほしい。
事務局	身体障がい者も対象として検討しているが、基準を今後検討していき、決定次第、周知を行う。
遠藤（和）委員	ごみステーションまで出すことを手伝うのか。それとも、戸別に収集するのか。 小山市は費用負担し、ボランティアにごみ出しを依頼しているようであるが、宇都宮市はいずれを検討しているのか。
事務局	玄関先までごみを出してもらい、市職員が戸別に収集することを検討している。
金沢委員	全市的に行うとなると件数が多く、難しいのではないかと。 モデル地区の選定や自治会説明の開催等どのように検討しているか。
事務局	全市での実施を検討している。対象世帯の基準を設定し、自治会連合会や民生委員等に説明した上で対象者を絞り込みたい。

神山委員	家庭系ごみ及び事業系ごみの計画値は、人口推計を考慮しないと意味がない。
事務局	9月に策定した「一般廃棄物処理基本計画」において、将来人口の推計に基づき、ごみ量を推計しており、人口値を踏まえて年度ごとに算出している。
遠藤（和）委員	北清掃センターが停止することに伴い、焼却設備の能力が低下するが、平成24年度の焼却施設の能力は十分なのか。
事務局	南清掃センターは64,000t/年、クリーンパーク茂原は104,800t/年の安定処理能力があり、焼却ごみ量の見込みの範囲内であるため、安定した処理が可能と考えている。
遠藤（和）委員	P5事業系施策とあるが、具体的なものは何か。
事務局	「事業系ごみ減量化推進事業」である。大規模事業所からは事業系一般廃棄物減量等計画書を提出していただき、それに基づき大規模事業所290社を訪問し、分別等を徹底するよう指導している。中小規模事業所2500社も訪問している。来年度も訪問指導を強化しながら、引き続き食品衛生管理者講習会における講習会等を行っていく。
遠藤（和）委員	P5の施策で、剪定枝や生ごみを民間主導で資源化を図るとあるが、どこの施設でどのように取り組むのか。
事務局	剪定枝は、市内の一般廃棄物処分業を行う事業者が年間2,600tをチップ化し、資源化している。 生ごみは、食品リサイクル法に則り、宇都宮市から75km圏内である芳賀町や壬生町の事業者へ搬出し、資源化している。
遠藤（和）委員	事業系ごみの組成分析調査の結果では、成果が上がっていないようである。事業者に対して、プラスチック製容器包装を分別することで利益が得られるようなインセンティブを与えるなど、工夫しないと分別の徹底は難しいのではないかと。
仲田委員	事業系のプラスチック製容器包装は、産業廃棄物として排出されている可能性はある。
遠藤（和）委員	市全体で減量するため、インセンティブを考慮した施策が必要である。
事務局	事業系ごみには、総体的に約48%の資源ごみが含まれており、事業者に対してインセンティブを与えるような施策がないと、協力が難しいと考えている。対応について検討したい。
遠藤（和）委員	国から地方に対し、災害廃棄物の受入れの質問があるが、回答はどのように考えているか。また、高齢者からのごみ収集は福祉部門と協力して実施してほしい。
神山委員	高齢者からのごみ収集はヘルパー等介護部門が実施すべきである。地域のコミュニティで対応した上で、できない部分を行政が実施するべきか。

事務局	<p>災害廃棄物の受入れは、国から県を通して照会がきている。</p> <p>本市では3月より2工場体制となる上、焼却ごみ量も増えているので、ごみ量や国の動向、市民の声等を踏まえて、市民の安心や安全を確保した上で受入れを検討していく。</p> <p>また、高齢化を踏まえたごみ収集は福祉部門と共に制度設計を行っており、民生委員からも状況を伺っている。ヘルパーの活用や地域コミュニティも大切にしながら対応していきたい。</p>
舟本委員	<p>P13最終処分場であるが、容量の半分まで埋立しているようだが、埋立はどのくらい進んでいるのか。今後の予定はどうか。</p>
事務局	<p>計画埋立容量は約355,000m³であり、埋立量は半分まで進んでおり、計画どおり推移している。</p> <p>今後、基本計画で位置づけたように民間の焼却灰資源化施設の活用を検討するとともに、新たな最終処分場の整備を進めていきたい。</p>
遠藤（和）委員	<p>P12資源物（廃食用油）の収集量、処理方法、活用方法、処理量の推移について伺いたい。</p>
事務局	<p>市内に収集箇所を38か所設置し、平成23年度は11月までに22,000ℓを収集し、3,500ℓのバイオディーゼル燃料（以下、BDF）を精製し、BDF対応車2台分の燃料としている。また、残りは民間へ販売している。収集量は前年並みであり、収集は引き続き行っていく。</p>
遠藤（和）委員	<p>民間に売却するなら、市で精製しBDFにする必要があるのか。民間業者で資源化することとしてよいのではないか。</p>
事務局	<p>回収場所の増加と市民の意識向上に伴い、収集量が増加してきた。増加に伴い、車両の燃料として使用する分だけ精製し、それ以外は売却してきた経過がある。</p> <p>廃油は、平成19年11月から障がい者の自立支援も目的に収集をしてきた経過もある。今後、民間施設での資源化も含めて資源化のあり方を検討していく。</p>